

特集

## フィリピン台風 緊急人道支援のご報告

チャイルド・フレンドリー・スペース (台風30号の被害に対する支援として設置)で遊ぶフィリピンの子ども

特集

# フィリピン台風緊急人道支援のご報告

2013年11月8日(金)、観測史上最大規模と言われる台風30号(ハイエン)がフィリピン中部を襲いました。死者6,000人以上、行方不明者1,700人以上という大災害に対応し、ワールド・ビジョン(以下、WV)がどのような支援を行ったのか、実際に支援活動に携わったスタッフの話をご紹介します。



ヘリコプターから見たレイテの様子(2013年12月)

## ■子どもたちに笑顔を取り戻してもらるように

猛烈な台風が過ぎ去った直後、WVはただちに緊急支援体制を整え、2日後の10日にはドイツにある緊急物資倉庫からマニラへ向けて5,000枚の毛布と3,000枚のプラスチックシートを緊急輸送しました。翌日、物資はマニラに到着したものの、壊滅的な被害を受けたフィリピン中部の島々への輸送は、海路・空路ともに困難を極めました。

14日、ようやく被災地の一つであるセブに到着し、食糧や衛生用品を届けたのを皮切りに、被害が最も大きかったレイテを含む他の島々でも支援活動が本格化。緊急支援物資の配布のほか、子どもが安心して遊べる場所(チャイルド・フレンドリー・スペース)なども設置しました。

WVは、8万世帯40万人に支援を届けることを目標に活動し、セブ、サマル、レイテ、パナイなどの島々で、目標を上回るのべ569,880人に支援を届けることができました(2014年1月15日現在)。



「これみんな、クリスマスプレゼントなの!？」届けられた支援物資に目を輝かせるアレクサンドラちゃん(イロイロ)



「台風でおうちと学校は壊れちゃったけど、ここ来ると元気がでるよ」チャイルド・フレンドリー・スペースで笑顔を見せるドミニクくん(レイテ)

サマール地域開発プログラム



レイテ地域開発プログラム



高潮の影響で陸に乗り上げた大型船

### ■チャイルド・スポンサーシップ支援地域の状況と今後の支援

ワールド・ビジョン・ジャパン（以下、WVJ）は、レイテとサマールで、2009年からチャイルド・スポンサーシップによる支援を行っています。今回の台風は両地域にも大きな被害をもたらし、スポンサーの皆さまには、チャイルドの安否について個別に連絡をさせていただきました。もともと貧しかった両地域は、台風の被害によりさらに厳しい状況になっています。12月中旬、木内スタッフがレイテとサマールを訪れ、今後の支援について現地事務所と意見交換するとともに、地域の状況を視察しました。チャイルド・スポンサーシップを通じて今後どのような活動を行うべきか、新しい中・長期の支援計画を策定中です。「子どもたちは本当に元気で、逆に私を励ましてくれました。被災状況を踏まえた支援計画を策定し、全力でこの地域を支えてまいります」と木内スタッフ。WVJは、これらの地域が、被災前よりも良い状態となることを目指して、現地スタッフや住民の方々と共に、全力で復興に取り組みます。



支援地域に住む親子と木内スタッフ（左）

### WVフィリピン エリザベス・アルファロ・デルガドスタッフの話

緊急支援開始直後、私は緊急対応チームの一員としてレイテに向かいました。しかし道のりは予想以上に厳しく、目的地に着くまでに丸2日かかりました。到着してすぐ、破壊しつくされた状況にぼう然となり、自分の無力さを痛感しました。しかし、被災した方々へ希望を届けるため、強い思いを持って支援活動を行いました。チャイルドの安否確認をするにも、道路の寸断などで予想以上に時間がかかりました。スポンサーの方々が心配する声は私のもとにも届き、すぐに情報を届けられないことを申し訳なく思っていました。フィリピンのことを気にかけてくださり、募金にご協力いただきました皆さま、そして辛抱強く情報を待ってくださった日本のチャイルド・スポンサーの皆さまには、心から感謝しています。



支援物資を運ぶエリザベススタッフ



～クリスマスまでに3500人の子どもたちを救いたい～  
**「いっしょに幸せになろう」キャンペーン**

2,638人の子どもたちへスポンサーを紹介できました

厳しい環境に暮らすチャイルドにご支援くださるスポンサー、そして、スポンサー同士がつながって温かな気持ちが広がってほしいという願いをこめ、「いっしょに幸せになろう」キャンペーンを2013年11月1日～12月27日まで実施しました。期間中に2,638人の子どもたちへ、チャイルド・スポンサーを紹介することができました。皆さまのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

この子どもたちが未来への希望を持ち健やかに成長できるよう、WVは教育、保健衛生、水資源開発、農業支援などの活動を通して支援します。引き続き、この子どもたちの成長をどうぞ温かく見守ってください。



WVフェスの会場入口

■初めてのWVフェスを開催

11月4日(月・祝) 13時～16時半、WVJ事務所に2つのステージを設置し、14のプログラムを実施しました。開場中は出入り自由、子どもたちを含めて約160の方が来場され、「支援の始め方」や「支援地訪問」の話の聞いたり、途上国の地域開発支援が体験できるゲームに参加しました。休憩スペースでは各国のおやつを食べながら、初対面の参加者同士がお話をされたりなど、楽しい時間となりました。



インド、ベトナム、ケニア…  
 珍しいお菓子がズラリ



体験ゲームには事務局長(中央)も民族衣装で登場!



みんなでいっしょに「ジャンボ! (スワヒリ語でこんにちは!)」

■成長して教師になった元チャイルドが来日

WVJが2008年まで支援していたフィリピンのJ・ジャイレー II 地域開発プログラム(以下、ADP)の出身で、現在は高校教師として活躍する元チャイルドのローレンス・ヴィラセランさんが来日し、イベントでスポンサーへの心からの感謝を語りました。大阪会場には約70人、東京会場には約280人の方がご参加くださいました。



スポンサーの存在がどれほどチャイルドたちに大切で心の支えとなるかを、心をこめて語ってくれたローレンスさん



ローレンスさんに当時の状況を聞く司会の酒井美紀さん(WVJ親善大使)



オリジナルのゴスペルを歌うエバークリーンクワイアが登場。子どもたちの澄んだ歌声が会場を包みました(東京会場)

※ローレンスさんの来日に関しては、  
 巻末ページもご覧ください

東日本大震災から3年－これまでの活動を振り返って－

震災発生2日後にスタッフを被災地へ派遣して以来、主に宮城県南三陸町、気仙沼市、岩手県宮古市で緊急復興支援を実施。約30万人を対象に支援を届けました。支援開始から3年目を迎えた今年、被災地で活動するNPOの育成支援と子ども支援、奨学金支給による支援を継続してきました。



WVJが提供した和船(2011年、宮城県気仙沼市)



学校に設置されたソーラーパネルの発電量を示すパネル(2012年、岩手県宮古市)



チャイルド・フレンドリー・スペースで過ごす子どもたち(2012年、宮城県登米市)



国連本部でスピーチする三浦さん(2013年、ニューヨーク)

2013年3月6日には、子ども支援の一環としてともに活動した南三陸町出身の三浦ほのかさん(当時18歳)が、ニューヨーク国連本部でWVJと行った“子どもに笑顔を!地域に夢を!”南三陸町まちづくりプロジェクト”の経験について、「大人だけでは見えない私たち(子どもたち)の目線があります。時間はかかるかも知れませんが、たくさんの発見があるはずですよ」と10分間のスピーチを行いました。

また、10月には東京・神奈川に住む中高生21人が南三陸町を訪問し、復興に取り組む地元中学生と交流して学びの場とするイベントを開催。被害を受けた地域を見学し、地元の語り部の方や高校生から震災発生時の様子を聞き、これらの学びを今後どう生かすかというアクションプランを作成しました。「南三陸の現状を家族や友だちに伝える」「東京での生活が当たり前でないことに気付いた。これからは一日一日を大切に生きたい」という声が聞かれました。なお、WVJの東日本大震災支援は、延長することになった被災県のNPO育成支援事業を残し、2014年3月末をもって終了します。皆さまから寄せられた多くのご支援とご協力に心から感謝申し上げます。



アクションプランを発表する参加者(2013年、宮城県南三陸町)

## アフガニスタン保健・医療従事者の養成環境整備事業

長引く紛争や度重なる自然災害の結果、アフガニスタンでは保健・医療従事者の不足とそれともなう母子保健サービスの低下が、高い妊産婦死亡率や乳幼児死亡率などの問題を引き起こしています。

WVJは2013年1月から、ジャパン・プラットフォームの助成により、アフガニスタン西部のヘラート州で助産師・看護師などの母子保健に関わる保健・医療従事者の養成事業を行っています。2014年1月現在、保健・医療従事者の研修施設である保健科学院の校舎を建設しています。新校舎は7教室、事務室、図書室、トイレ4カ所から成り、厳しい冬の寒さに対応した暖房設備や、水道・電力供給システムを備えています。

新校舎が完成すると、これまで外部の施設を間借りして行っていた助産師・看護師の養成を、新校舎で実施できるようになるだけでなく、教室不足のため長い間中断を余儀なくされていた再研修が可能になり、最新の医療知識と、技術を習得できるようになります。また新校舎に実習室が新設されることで、今までヘラート州にはなかった薬剤

師と臨床検査技師の養成プログラムを実施できるようになります。

今後は以下の支援を中心に行います。

- ①新校舎で助産師・看護師の再研修を実施するための支援
- ②設備の整っていない郊外のコミュニティで、助産学生・看護学生が実践的な臨床実習を実施するための支援
- ③薬剤師・臨床検査技師の養成プログラムに必要な実習機材と薬剤の提供
- ④保健科学院がこれらの保健・医療従事者養成プログラムを運営管理するために必要な知識・技術のサポート

これらの支援によって、アフガニスタン西部地域において、将来にわたって適正な知識と技術を持った保健・医療従事者が養成され、この地域の母子保健サービスの質が向上することを目指しています。



実習中の助産師の女性（ヘラート）



医療・保健従事者の女性（ヘラート）



建設中の新校舎（ヘラート）

## スリランカに安全な水を！



株式会社タイセイ（本社：東京都新宿区）は、建築資材の開発・製造販売を行っている会社です。WVJを通して、2011年の Bangladesh の小学校建設に続き、現在はスリランカにおける給水システムの整備事業をご支援いただいています。

スリランカの支援地域では、人々が安全とはいえない井戸水や湧水を利用して生活しています。安全な水を得るため、女性や子どもは遠くまで水を汲みに行かなくてはならず、大きな負担となっています。

今回のご支援では、新たな貯水槽を設置し、居住区への送水管を整備するとともに、水源の保護や、水衛生に関する啓発活動などを実施しています。ご支援によって、水を介した伝染病や栄養不良、子どもたちの教育機会の減少など、これまで抱えていた多くの課題の改善が期待されます。



丘陵地帯にある支援地域



完成間際の貯水槽



きれいな水に、笑顔のこぼれる子どもたち

## ラブギフトのご案内

### ラブギフト -海を渡って届く、子どもたちへの贈り物-

途上国の子どもの生活に役立つギフトを選び、贈ることができる「ラブギフト」がスタートしました！

「ラブギフト」はWVJのホームページで受け付けています。ご案内しているギフトの中から、支援地の子どもたちに贈りたいもの（ノートや鉛筆など）を選んで必要額を募金していただくと、現地のWV事務所へ内容が伝えられ、現地で調達されたギフトが必要とする子どもたちに届けられます\*。あなたの選んだギフトが、子どもたちに笑顔をもたらします。ぜひ、ご利用ください！詳細は、WVJのホームページをご覧ください。



ラブギフトを選んでいただく



※地域、子どもの指定などはお受けできません。

世界中のWVが一丸となり、子どもたちの命を救うために声を上げました！

2013年9月の国連総会は、世界のリーダーがミレニアム開発目標 (MDGs) の進捗を確認し、2015年以降の世界の開発課題となる「ポスト2015開発アジェンダ」について議論する重要な会議でした。WVが世界規模で行っているアドボカシー・キャンペーン「Child Health Now-アクション! 救えるはずの命のために」<sup>※</sup>も、この会議に合わせて活動を行いました。具体的には、世界56カ国からWVのスタッフがニューヨークに集まり、貧困による格差を解消し子どもたちが5歳以上まで生きられるようになることを、世界のリーダーに訴えました。また、日本を含む24カ国で、国連総会前にそれぞれの政府に対し直接的な働きかけを行いました。



「世界の子どもが5歳まで生きられますように!」という願いを込めてアクションする子どもたち (ミャンマー)

※日本でも、このキャンペーンの一環として「命の木プロジェクト」を2013年7～9月に実施し、多くの皆さまからアクションにご協力をいただきました



国連総会サイドイベントとして開催したパネルディスカッションの様子



キャンペーンに賛同することを手のひらで表す子ども (マラウイ)

グローバル教育

「WV子どもカレンダー」ができました！

新学期から使える教育機関向けのカレンダーです。世界の子どもたちの様子やWVの活動に理解を深められる写真やイラストが入っています。また、「児童労働反対世界デー」や「貧困撲滅のための国際デー」、「世界エイズデー」などの国際デーも紹介しています。学校などで掲示し、世界の子どもたちやWVを身近に感じていただければと願っています。詳細・資料請求はホームページをご覧ください。



ご家庭などでお子さまへの資料がご入り用の方は「子ども向け啓発資料」をご利用ください

2014年4月から2015年3月までの教育機関向けカレンダーです (A2サイズ)

和久井さんは現在、チャイルド・スポンサーシップを通してコンゴの男の子をご支援くださっています。  
1994年から2007年までご支援くださったフィリピンには、支援地訪問ツアーを通じて3度足を運んでくださいました。

支援を始めたきっかけは、今まで自分自身が多くの  
方に支えられてきたこと、ボランティアなどの体験を  
通して、またクリスチャンとして、少しでも誰かの支え  
になったり、直接関われなくても何かできることをし  
たいと思っていた時に、WVの活動を知ったからです。

本当にありがたいことに、支援していたフィリピンへ  
は3度訪れることができ、行くたびにその地域に必要な  
支援が形作られ、子どもたちが暮らす環境が整え  
られていくのを見ました。また、子どもたちと共に大  
人も色々なことを学び、自分たちができることを考え  
ながら、地域全体と個々が結びつき自立に向かって  
前進していました。

訪問することで自分たちも現地のことを知ると同時  
に、現地の方たちの自信にもつながっていました。子  
どもたちの学ぶ環境が整えられ、今まで持っていな  
かった夢を持つことができるようになっていました。こ  
れからも夢がつながっていくよう願っています。



2007年3月の「地球あちこち～フィリピンを知る旅」  
では、当時のチャイルド、ポールくん(右)が和久井さ  
ん(左)に歌をプレゼントしてくれました

## ツアーのご案内

### チャイルド・スポンサーの「地球あちこち～エクアドルを知る旅」のご案内

南アメリカ大陸、赤道直下の国エクアドルには、アンデス山脈が連なり、ガラパゴス諸島があります。また、人口の約9割を先住民およびメスティソ(混血の人々)が占めています。標高約3,000mの高地に位置するブンガラADPとコルタADPを訪問し、チャイルドとの交流を通じて、支援地域を体感していただく絶好の機会です。世界遺産として指定されているキト旧市街も訪問する予定です。ご関心がある方は、まず資料をご請求ください。

- 訪問先:** プンガラADP(ECU-190632)、コルタADP (ECU-196377)  
**期間:** 2014年8月23日(土)～8月31日(日)  
**参加費:** 約350,000円(別途、空港諸税、燃油費が約61,700円かかります。  
 燃油費は、今後変更になる可能性があります)  
**申込締切:** 2014年6月23日(月)必着  
**参加人数:** 20人(最低催行人数14人:エクアドルのスポンサーを優先します。  
 申込み多数の場合は、申込み順や、これまでの参加回数などを考  
 慮し、選考させていただきます)

- ※1 最終的に確定した参加費は、ご請求いただく資料に記載します  
 ※2 チャイルド・スポンサーの方に限らせていただきます  
 ※3 訪問国の治安状況により、ツアーを中止させていただく場合があります。ご了承ください



スポンサーから送られた誕生日カードを手に笑顔のチャイルドたち

ツアーに関するお問合せ：TEL：03-5334-5351 Eメール：dservice@worldvision.or.jp  
 (メールにて資料請求の場合は「エクアドル訪問ツアー希望」とお書きください)



CONTACT CENTER 課 CONTACT チームは、お問い合わせに回答させていただくチームです。ご支援者とチャイルドの架け橋になればと日々努めています。このコーナーでは、ご支援者の皆さまから寄せられる疑問・質問にお答えします。

**Q** 私のチャイルドは小学生ですが、なぜ手紙が代筆なのでしょう。

**A** 日本では小学校低学年でも手紙を書ける子どもがいますが、途上国では小学校に通っていても手紙を書くことが難しく、代筆となる場合があります。たとえば、地域によって文字を書く文化そのものがないかたり、学校で習う公用語とは違う言葉を日常生活で使っているため、文字は書いても文章をつづることが難しいなどの理由があります。そのため、手紙を書く際、周りの大人の助けを受ける子どもが多くいます。

様々な事情はありますが、スポンサーとの手紙による交流はチャイルドが一人の人間として認められ、励まされる経験となります。また、自分の考えや気持ちを表現する機会にもなる大切なものと考えています。今後も教育や地域の活動を通して、チャイルドができるだけ自分自身で気持ちを伝える力が付くよう、励ましていきます。皆さまにも、子どもたちの成長を温かく見守っていただければと思います。



「ぼくの宝物なんだ!」スポンサーからの手紙を手に喜ぶチャイルド(ミャンマー)

**WVJスタッフの「とある1日」** CONTACT CENTER 課 CONTACT チーム みの まいこ 三野舞子スタッフ

CONTACT チームで各種お申込み・資料請求・お問い合わせに対応している三野スタッフ。  
「支援地域について、チャイルドについて、お手紙について…  
どんなことでもお気軽にお問い合わせください!」



**9:15** ホームページなどからのお問い合わせ数を確認。  
朝礼にて担当を割り振ります。

**9:30** ~ **11:00** ~ **11:45** ~ **15:00** ~

支援者窓口(9:30~19:00)開始に合わせ、業務スタート。昨年のキャンペーン中には1日平均400件以上のお問い合わせをいただきました。お預かりした皆さまの声は各部署や団体全体と共有し、今後の活動に役立たせていただいております。



チームミーティング。他部署からの情報をチームメンバーと共有したり、皆さまからの声を元に、サービス向上や問題解決のための話し合いを行います。



チームメンバーが準備した送付状をチェックし、間違いなくお届けできるよう入念に確認。その後、支援者窓口業務に戻り、様々なお問い合わせに対応します。

## ■WVカフェのご案内(2014年4月~5月)

ご家族ご友人をお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。参加ご希望の方は事前にホームページ、Eメール、またはお電話にてお申し込みください(締切は開催日の3日前までです)。

TEL:03-5334-5351

FAX:03-5334-5359

Eメール: dservice@worldvision.or.jp



### 栃木

日時:4月12日(土)14:00~16:30

場所:宇都宮市文化会館 第2会議室

〒320-8570 宇都宮市明保野町7-66

TEL:028-636-2121

### 群馬

日時:4月19日(土)14:00~16:30

場所:高崎商工会議所 第1会議室

〒370-8511 高崎市問屋町2-7-8

TEL:027-361-5171

### 北海道 旭川市

日時:5月10日(土)13:30~16:00

場所:旭川市民文化会館 第3会議室

〒070-0037 旭川市7条通9

TEL:0166-25-7331

### 北海道 札幌市

日時:5月11日(日)14:00~16:30

場所:北海道立道民活動センター

かでの2.7 520研修室

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7

TEL:011-204-5100



WVカフェ in 大阪の様子

## ■「プログラム近況報告」のお届け時期について

チャイルド・スポンサーの皆さまには、毎年春に「プログラム近況報告」をお届けしておりますが、今年は「チャイルドの成長報告」に同封して現地から直送する方向で準備を進めています。そのため、お届け時期が例年と異なりますことを、何卒ご了承ください。

## ■第24回ヤマザキ「ラブ・ローフ募金」贈呈式

2013年10月18日、第24回ヤマザキ「ラブ・ローフ募金」贈呈式が行われました。山崎製パン株式会社および株式会社不二家より、全国のヤマザキおよび不二家のお店に設置されているラブ・ローフ募金箱にお寄せいただいた募金、10,000,000円を贈呈いただきました。募金は、干ばつなどの気候変動で住民の約76%が食糧不足となったタンザニアのゴロワ郡において、特に子どもの栄養不良改善のための継続的な食糧確保の支援に、大切に使用させていただきます。温かいお気持ちをお寄せくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

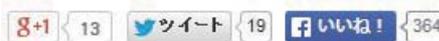


山崎製パン株式会社吉田専務取締役(右)に感謝状を渡すWVJ理事長の榎原

## ■スタッフブログが新しくなりました!

支援地でのエピソードや、日本の事務局で働く中での思いをつづっているスタッフブログが新しくなりました(URLも変わりました)。新しいブログには、FacebookやTwitterでのシェアも気軽にできるボタンがついています。お気に入りのブログのシェアにもご活用ください!

スタッフブログ「国際協力の現場から」<http://blog.worldvision.jp/>



## 編集後記

東日本大震災、シリアの内戦、フィリピンの台風、南スーダンの武力衝突など、ここ数年、どうしてこんなに紛争や災害が続くのでしょうか。究極的には人間の「エゴ」と「エコ」の問題なのでしょう。エゴは人間存在の根源に関わる問題だし、エコは人間のライフスタイルの問題でそう簡単には直りません。紛争や災害、貧困の現実は何度も直面すると、正直無力感に襲われます。意欲と力が湧き出てきません。一人の力は弱いと思います。でも、だからこそ、仲間を増やし、知恵と力を集めなければならなりません。あきらめたらそれで終わりだ、と思いがらの働きです。(事務局長)

# 「チャイルド・スポンサーは私にとってヒーローです」



初対面とは思えないローレンスさんと中澤さん(右)

中澤さんが東京見物に連れて行っていただきました



フィリピンのJ・ジャイレー II 地域開発プログラムでチャイルド・スポンサーシップによる支援を受けた元チャイルド、ローレンス・ヴィラセランさんが2013年12月に来日し、イベントに出演すると共に当時のチャイルド・スポンサー中澤<sup>のぶゆき</sup>紳行さんを訪問しました。「中澤さんから、「君はフィリピンにいる私の息子だよ」という手紙を受け取ってから、「父親を亡くしたけれど、私には日本にお父さんがいるんだ」と思うようになりました。このことを支えに、今まで頑張ることができました。最後のお手紙に「いつか直接会って、握手できる日が来るといいね」と書かれていた夢が実現して本当に嬉しいです。チャイルド・スポンサーはチャイルドにとってヒーローなんです」と話すローレンスさんは現在公立高校の教師として働いています。「自分が受けてきたものを恩返ししたい」と、「学問」を教えるだけでなく、「人生」も教えることができる先生を目指しています。中澤さんも「自分が細々と続けていたことが間違いではなかったと実感できました。チャイルド・スポンサーシップはチャイルドとつながりを持てるので一時的な支援にはない充実感があります。ローレンスさんが先生として活躍していることを本当に嬉しく思います。今度はローレンスさんがフィリピンのチャイルド・スポンサーになって、つないでいけたらいいですね」と語ってくださいました。



支援を受けていた頃のローレンスさん(右)とお母さん(左)。小学校の卒業式にて

ローレンスさんが初めて受け持ったクラスの集合写真(最前列右端)



一人でも多くの子どもたちがローレンスさんのように希望に満ちた人生を生きていけるよう、  
チャイルド・スポンサーを募集しています。

チャイルド・スポンサーを募集しています！ お申し込みは今すぐ

電話: ☎ 0120-465-009

(お申込み、パンフレットのご請求にお使いください)

(24時間受付)

ファックス: 03-5334-5359

(右記の□にチェック(✓)をしてお送りください)

<http://www.worldvision.jp/>

(お申込みやパンフレットのご請求ができます)

- チャイルド・スポンサーシップに申込み  
チャイルド・スポンサーシップのチャイルドを追加する

お申込みの方

支援希望地域: アフリカ アジア 中南米 フィリピン  
任せます

送金方法: クレジットカードの毎月利用  
 (VISA、MASTER、SAISON、JCB、AMEXがご利用いただけます)  
金融機関口座から毎月の引き落とし

名前(フリガナ)

パートナー番号(お分かりの方はご記入ください)

住所

電話番号

Eメール

お問い合わせは  
 コンタクトセンターへご連絡ください。

■コンタクトセンター(支援者窓口)

TEL:03-5334-5351

FAX:03-5334-5359

(平日9:30~19:00)

[dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp)

ワールド・ビジョン(1950年設立)は、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを行う国際NGOです。

特定非営利活動法人

ワールド・ビジョン・ジャパン

理事長●榎原 寛 発行責任者●片山 信彦

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL:03-5334-5350(代) FAX:03-5334-5359

ホームページ: <http://www.worldvision.jp/>



MC11990

2014年2月発行